

セルビアでは障害児・者への公的支援が十分でなく、当事者や家族の多くが困難な状況にあります。宮城さんの配属先はセルビアで唯一、障害児・者を対象に年間を通じてスポーツ指導を行っている団体です。国外からのボランティアを受け入れるのは初めてですが、宮城さんのフレンドリーな性格もあり、あっという間に人気者になっています。



所員(総務・ボランティア事業)
野村 留美子(のむら・るみこ)

その調子で泳ごう



子どもの水泳指導を行う宮城さん。



JICA海外協力隊 がゆく Vol. 13

今回紹介するのは、セルビア初の海外協力隊員。障害児・者のスポーツ活動を支援しています。

in セルビア 宮城勇也

みやぎ・ゆうや 24歳
出身地: 沖縄県 職種: 障害児・者支援
任期: 2019年1月~2021年1月

障害のある人たちが
スポーツを楽しめるよう
サポートをしています



+one information 誰もがスポーツを楽しめる国に

日本人にはあまりなじみのないセルビアですが、実はスポーツの分野では世界トップレベルの選手が多います。誰もが知っている人といえば、テニスプレイヤーのノバク・ジョコビッチでしょうか。バレーボールもバスケットボールも世界トップレベルです。首都ベオグラードのきれいに整備された公園の広場では、子どもたちがバスケットボールやサッカー、ランニングなどに励んでいて、選手育成のための子ども向けクラブから大人が趣味として参加できる場まで、街のいたるところにスポーツのできる環境があります。

しかし、障害のある人たちがこのような施設でスポーツをしている姿を見ることはあまりありません。街がバリアフリーでないこと、彼らにスポーツを教える指導者がいないこと、またそもそも外出する機会が少ないことなど多くの課題があります。どんなに重い障害があっても環境と少しのサポートがあれば、彼らも同じようにスポーツを楽しむことができます。地域の人たちに彼らの存在を知ってもらうことで、彼らの可能性やバリアフリーなどの必要な支援に目を向けてもらえると思います。

セルビアの人たちはとても優しく、バスではどんなに混み合っても子どもやお年寄りに席を譲り、街で困っている人がいると「何かできることはない?」と声をかけます。障害があっても社会参加できる場があれば、きっと周りの理解も得られ、より安心して充実した生活を送ることができると思います。(宮城勇也)



イラスト ● さかがわ成美

みんなで
完走しました!



車いす利用者のサポートとしてベオグラード・マラソンに参加。

走りました! 多くの大会参加者や観客、メディアなどにも、日本から来た協力隊員による障害者サポートについて興味を持ってもらえ、セルビアの障害児・者を取り巻く環境に少しではありますが新しい風を吹かせることができました。スポーツは障害の有無にかかわらず多くの人が楽しむことができます。協会での活動やスポーツ大会への出場などを通して、多くの人に障害児・者の存在をアピールし、おたがいの理解を深めていきたいと思っています。



教え子たちが参加した柔道の大会で。

施設の利用者には、後天的な(たとえば病気や交通事故などによる)障害のある人も多く、私には新しい試みとなる場面もありますが、指導や支援について本人やご家族、同僚と一緒に考えていくよう意識しています。先日行われたベオグラード・マラソンのハーフマラソンには、車いすの利用者と一緒に参加し、完

スポーツが大好きで幼い頃からテニスや空手、水泳をやっていた。特別支援学校教諭だった両親の影響で、大学では特別支援教育を専攻。学生の頃は障害者スポーツの大会ボランティアや地域のスポーツ指導を行っていました。高校時代、部活で取り組んでいたテニスの監督が青年海外協力隊のOBでした。ケニアでの活動の話聞き、彼の生き方に憧れ、協力隊に参加したいと考えていました。そして、協力隊の募集で真っ先に目に入ってきたのは、セルビ

アでの障害児・者へのスポーツを通じた余暇支援、選手育成でした。同国には障害児・者への理解や社会参加の機会が少ないなどの課題がありました。それに対して、私が大学やスポーツで学んだことが役立つと同時に、彼らとの関わりで自分も成長できるのではと考えて応募しました。今年1月から、ベオグラード障害者スポーツ協会が協会の同僚と複数のスポーツ施設を巡回し、スポーツトレーナーとして水泳や空手、テニス、子ども向けの運動などの指導を行っています。水泳や空手はセルビア人の指導者がいますが、テニスの指導ができるのは私だけ。協会では新しいスポーツの支援活動に取り組めたと喜んでもらえました。最近では、指導内容がマンネリ化しないように同僚と話し合いながら、新しい練習プログラムを取り入れています。